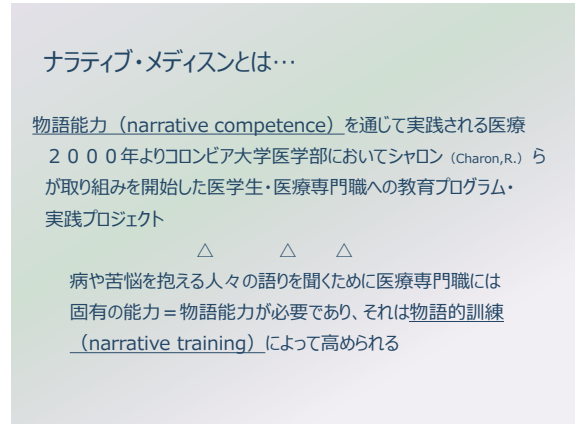
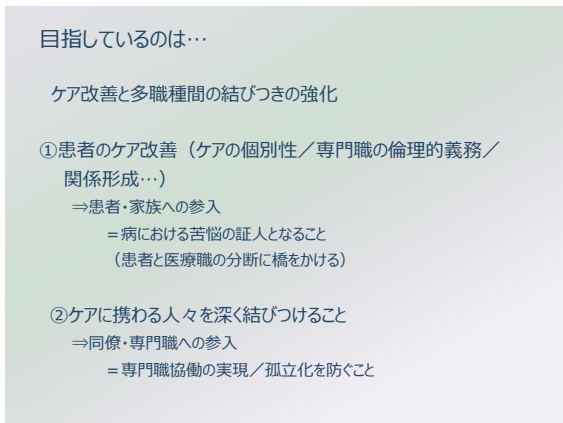




1



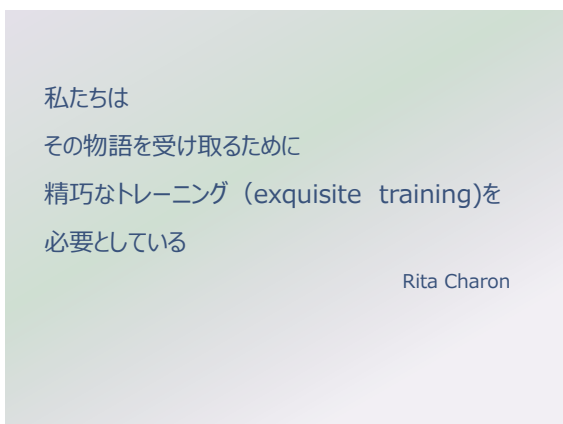
2



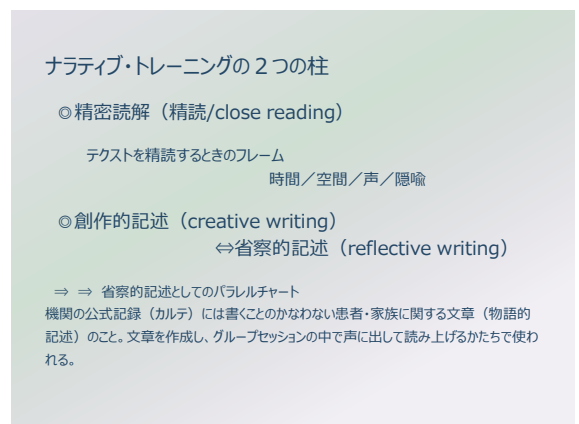
3



4



5



6

「毎日、皆さんは自分の受け持っている患者についてカルテに書き込みます。そこに何を書くべきか、どんな形式で書き込むべきか、皆さんは正確に知っているでしょう。患者の主訴、身体診察の結果、検査所見、上級医師の意見、治療計画について書きます。もし前立腺がんで亡くなるようとしているあなたの患者が、今年の夏にその病気で亡くなったあなたの祖父のことを思い出されるとしても、その患者の病室を訪れるたびに祖父のことを思い出して涙するとしても、それを病院のカルテに書くことはできません。私たちがそうさせないでしよう。それでもそのことは、どこかに書かれる必要があります。それをパラレルチャートに書くのです」

(シャロン「ナラティブ・メディスン」p.224)

7

なぜこの2つのトレーニングが必要なのか

— N Mにおける3つのムーブメント＝物語能力

*Attention*配慮/注目－注意深さ・意識すること

*Representation*表現/再提示－認識したものを表象することを  
通して理解・接近する

*Affiliation*参入/連携－勇気をもって分かち合うことでつながる・  
関係性を築く

8

「私たちが書く理由は、臨床で学んだことを他者に向けて表現するためだけではない。その目的の前に（中略）、患者に対する臨床的な義務を果たすという目的がある。患者が、そして患者との関係性が実際のところどうであるのかをもっとも根本から知ることができるのは、書くことを通じてである」

(シャロン「ナラティブ・メディスン」pp.190-191)

9

本日のワークにおけるアレンジ…

精読を簡略化し、「読むこと」に響かせて  
「書くこと」＝パラレルチャートに取り組む

ストーリー（文学作品）とストーリー（パラレルチャート）  
の「共鳴」に焦点を当てる作業を通して



ストーリーの〈多声化〉を体感してみよう

10

テキスト＝絵画 を使った実践例

Frida Kahlo から書く

11

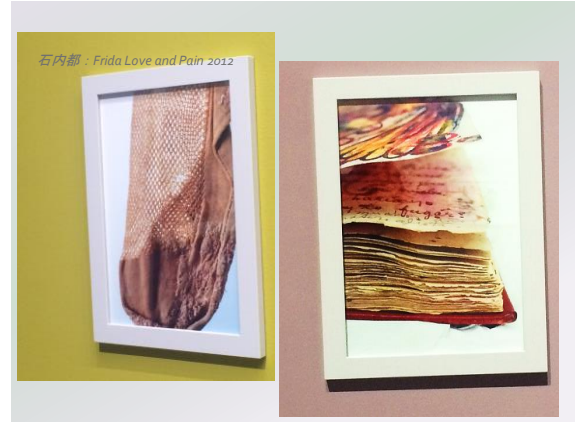


フリーダ・カーロ：ヘンリーフォード病院 1932

12



13



14



15



16

### パラレルチャート

この絵を見ている最初に思い出したのは、実はご利用者ではなく、祖父のことでした。祖父は静岡でみかん農家を営んでおり、お正月に帰ると、必ずみかんを差し出して「たくさん食べな。じいちゃんの子どもの頃は、年の数くらい食べたもんだ」とよく言っていました。ただ、子どもだった私たちは、祖母が山のように買ってあるケーキやアイスクリームの方がうれしくて、せいぜい1つか2つしか食べなかった記憶があります。この絵を眺めていたら、祖父の家のみかんの匂い、お風呂に浮いていたみかんの皮、亡くなってから仏壇にてんこもりに積まれたみかん、そんなことが一気によみがえってきました。

そして、つながって浮かんできた顔がNさんです。Nさんは特養に入所して3か月の男性です。先日のかア会議で、自力摂取は可能なはずなのに食事が進まないことが課題になっていました。Nさんは、10年前くらいまで商店街でもかなり立派な魚屋を営んでいたのですが、介護主任が、「魚にも一切手をつけなみたい、魚屋さんだったのにきれいなのかしら」と言っていたことも印象に残っていました。

17

祖父のことを思い出して、Nさんのことを考えた時、Nさんだったら「人生万歳」というタイトルでどんな絵をかくだらうと考えました。たぶん、びちびち跳ねる、勢いのいい魚たちが描かれるだろう、と想像しました。（そう思うと、施設の食事でできるムニエルや煮魚を食べないのはむしろ自然に思えました。）でも、どんな魚なんだろうか、うまく思い浮かべることができません。最初に会ったときから今まで、ケアプランを作るときも、そんなことを一度も、ご家族からも何も聞いてこなかったことに気づきました。Nさんの人生について、私はたぶん何も聞いていなかったのです。

おじいちゃんのみかんを、もっと食べればよかった。おじいちゃんに、なんでもっとみかんの話を聞かなかつたら。今すぐ飛んで行って、「Nさん、Nさんならどんな絵をかきますか？魚ですか？どんな姿の、どんな魚ですか？」と聞きたい気持ちになりました。

答えていただけるかどうかはわからないけれど、聞くべきなんだということが今はわかっています。

18

クリエイティブ・ライティングへ（「あなたの人生 きみの物語」）

—サポーターズ・ライティング・プロジェクトより

#### 生の希望

朝、着替えを持って病院に行く、すでに母は起きていて、開け放たれた窓から外を見ていた。

「おはよう。今日の調子はどう？」

私が声をかけると、母は窓の方を向いたまま、遠くを指差す。

「あそこはほら、誠一が稲刈りしているのが見えるよ」

指差した方を見ると、白い4階建てのマンションが朝の光を浴びて光っている。その前の路地を、慌てた様子の自転車の学生が走り抜けていった。

「今日は、いい天気よかった」

そう言うと、母は満足げにうなずく。母が見ているのは、きっと20年前に入院した実家近くの市立病院だろう。市街化調整区域の中で、周囲が田んぼに囲まれていたから、母のいた病室からも眼下に広く田んぼが見渡せた。辺り一面に、刈り入れを待つ黄金色の稲穂が広がっていた。兄の乗るコンバインが黄金の海に足を踏み入れる。端から稲株に添ってまっすぐ行き帰りを繰り返し、林立する稲株をきっちり刈り取っていく。みるみるうちに、刈り取った後の淡いベージュの領域がどんどん増えていく。

19

兄は教師をしていたが、田植えと稲刈りの時期には農作業を手伝った。父や母が年を取ると、兄と兄嫁が代わりに作業をすることが増えていった。やがて、教師を退職して農業をやりたいと兄が言いだすと、母はそれを喜んだが、父は強固に反対した。いまさら、米を作って食べていけるわけがないと。そして兄は、より現実的な選択をした。

「誠一は、どうしても最後のひとつねを中途半端に刈り残すね。いつもそうだった」刈り取りが終わった田んぼは、根本から切断された稲株の間を、短い切れ端となって枯れた藁が覆っている。緑が失われ、人も鳥も立ち去ってしまったあとの、一足早く冬が来たように寒々とした光景。

「残った稲は、どうするの？」

私は、たわむれに聞いてみる。

「ぞうさもないよ。自分の手で最後は刈り取るのさ。ぞうさもない」

母はそう言って、振り返った。農家の末っ子として生まれ、農家に嫁ぎ、三人の子どもを育てた母のその眼は、しずかに笑っている。私は、何度もめぐりくる季節を見つめてきたその眼の中に、つぎに受け継がれるべき何かを探し、見つめ返す。

20

## どこへ行くかとしているのか…？

### ◎ 人／出来事の多義性に挑むこと

—としてのクライアント理解／自己理解  
(社会構成主義的アプローチ)

クライアントの“本当の”姿、語りの“真意”  
支援者の自己開示・自己洞察・自己覚知  
…ではなく

収斂的な説明ではなく、拡がりをもつ記述を重ねることによる  
“理解”

…ナラティブの多義性 narrative multiplicity

21

ジュリア・マーガレット・  
キャメロン

「休息の聖母—希望に  
安らいで」 1864



22



ジュリア・マーガレット・  
キャメロン

「ベアトリーチェ」 1864

23

### ◎ 共鳴がもたらす多義性への接近

ストーリー 1

(テキスト・文学・絵画・写真…)

×

ストーリー 2

(パラレルチャートを書く×読み上げる)

×

ストーリー 3

(パラレルチャートとともに語る)

×

…

24

## ストーリーの多声化・重層化



reality construction / text reading の厚み

25

## ワークの進め方

①事前に指定テキストを読み、その文章から喚起・想起される患者・家族、あるいは患者・家族と私についての文章＝パラレルチャートを作成する

600字～800字程度

今回のテキスト

「美しい距離」山崎ナオコラ 文藝春秋 2016  
 …… (文春文庫 2020)



26

②4人1組になり、他の3人に向けてパラレルチャートを読み上げる（全員）

③聴いた他の3人は、その文章のストーリーがより豊かになるような質問または共鳴的なコメントを伝える / 読み上げた人は、質問に答える

④各グループの中から、代表作を1つ選ぶ。代表者は全体の場で読み上げる（以下、同様に全体で共有）

27

参考：パラレルチャートの共有をするときには…

○声にだして読み上げる

○共鳴的な応答（質問）をする

<参考> アウトサイダーウィットネスのインタビューを形作る4つの質問カテゴリー（ホワイト「ナラティブ実践地図」P162）

1. 表現に焦点を当てること
2. イメージに焦点を当てること
3. 個人的な共鳴（personal resonance）
4. 忘我（transport）

このストーリーが、他のことをしていたらたどり着かなかったどんな場所にあなたを連れて行ったか

…どう「心を動かされた（moved）」か

28

具体的には…

<参考> ホワイト&モーガン「子どもたちのナラティブ・セラピー p173のワークシートを一部改変

\* 一番私の耳に残った（心をとらえた）表現は…

\* 私に浮かんだ光景は…

\* 私が想像したのは…

\* それが私の耳に残った（心をとらえた）理由は、それが私の経験／人生と（の）…

\* …さんのストーリーを知って、私の中では…

\* …さんのストーリーを知って、私はこれから…

\* あるいは、そのことは私に（を）…

29